

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウルメイワシ

学名 *Etrumeus teres*

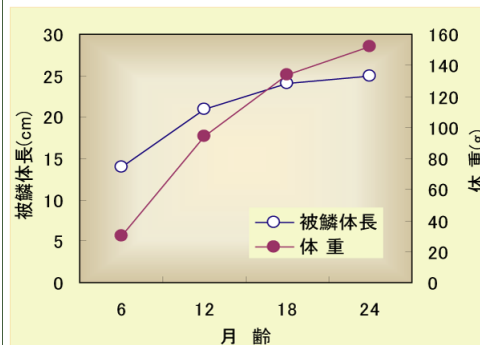
系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 2歳前後
成熟開始年齢: 9カ月(一部)、12カ月(100%)
産卵期・産卵場: 産卵期は10～7月で、盛期は2～7月と11～12月の年が多い、産卵場は沿岸域
索餌期・索餌場: 周年、沿岸域
食性: 動物プランクトン等
捕食者: 中大型浮魚等

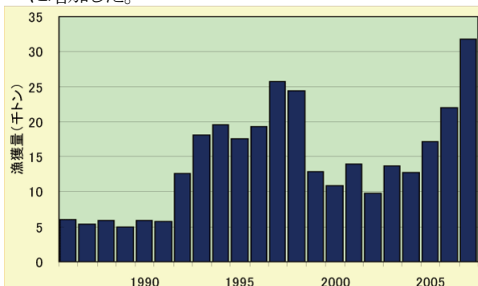


漁業の特徴

日向灘～豊後水道のまき網による漁獲が最も多い。各地の定置網に入網し、和歌山県の棒受網、高知県の多鈎釣りでも漁獲する。シラス期は船びき網で漁獲する。外国船による漁獲はない。

漁獲の動向

宮崎県～三重県の合計の漁獲量は1991年までは低水準であったが、1992年に急増し、1993年から1998年まで18千～26千トンと高水準であった。1999年から2005年までは10千トン台で推移し、2006年は22千トン、2007年は32千トンに増加した。

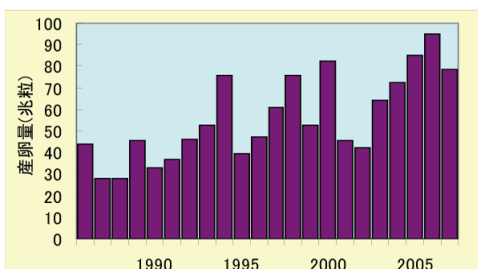
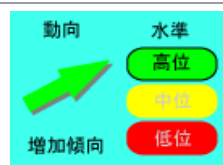


資源評価法

資源水準を産卵量により判断した。各県水産試験研究機関と水産研究所による改良型ノルバックネットの鉛直曳採集結果に基づき、採集点毎の卵分布密度を求め、卵の発生速度を考慮して、海域面積で引き延ばして月毎の産卵量を計算した。

資源状態

産卵期を通じて卵の大半が土佐湾に分布していることから、魚群は土佐湾に集中しており、それ程移動しないと考えられる。資源水準の指標となる産卵量は3～5年ごとに増減を繰り返しており、変動の幅は約3倍である。2003年から2006年まで産卵量の増加が続き、2007年はやや減少したが、過去22年間で4番目に多い。



管理方策

現在の漁獲は資源に大きな影響を与えておらず、また、資源水準も高位と考えられるので、現状の中程度の漁獲を継続して資源水準を維持することを管理目標とする。利用可能な情報は漁獲量と産卵量であるので、管理指標値を漁獲量とした。生物学的許容漁獲量の上限値(ABClimit)は、2005～2007年の平均漁獲量(=24千トン)、生物学的許容漁獲量の目標値(ABCTarget)は、ABClimit×0.8(安全率)とした。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	24千トン	Cave3-yr	-	-
ABCtarget	19千トン	0.8Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 資源量を直接計算しておらず、産卵量を指標とした
- 漁獲量、産卵量は比較的安定している
- 現状の漁獲は資源に大きな影響を与えていない

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲を継続して高位の資源水準を維持することを管理目標とする
- 2005～2007年の平均漁獲量を生物学的許容漁獲量の上限值とする
- 上限値の0.8倍を目標値とする
- 産卵量で水準と動向を判断し、平均漁獲量からABCを算定する場合、産卵量が少なく近年の漁獲量が多いとABCが過大になる恐れがある

資源評価は毎年更新されます。